



公開講座の実施

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 福島県立医科大学看護学部 公開日: 2010-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒田, 真理子 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000512

公開講座委員会

公 開 講 座 の 実 施

看護学部公開講座委員会委員長 黒田真理子

平成21年度の第1回公開講座は、昨年度に試みた「ふくしまの安全医療をめざしてともに考えませんか」というメインテーマを踏襲し、「安心なお産のために今できること」というサブテーマの下に11月14日(土)に福島県医師会館にてシンポジウム形式で開催されました。第2回公開講座は「地域の保健行政データを活かす施策提言－健診・医療・介護情報のリンケージによるライフスタイルの解析」というテーマで、12月5日(土)に看護学部棟にて開催されました。

第1回目は、本学部の太田操教授を座長に、母親の立場から福島市在住の葛西久美子氏、助産師の立場から福島県立医科大学附属病院の津田裕子氏、産婦人科医師の立場からいわき市立総合磐城共立病院の本多つよし氏をシンポジストにお招きして、福島県の未来を担う次世代を育成するために、安全で安心して産める環境をつくるために何が必要か、何ができるのかを住民と看護職や医師などの専門家、行政職などで話し合いました。

葛西久美子氏はご自身のお産体験から産婦自らも主体的にお産に取り組む必要性を話され、津田裕子氏は院内助産所・助産外来の効果と今後の課題について話され、本多つよし氏は最近のお産事情や周産期医療の課題を話されました。また、福島県保健福祉部医療看護課のご協力をいただき、福島県の医療対策などの資料を提供していただきました。

第2回目は、本学部の林正幸教授から福島県西郷村、三春町、矢吹町、喜多方市などで実施された、健診結果情報・国保レセプト情報・健康アンケート・介護保険情報などを結合・集約して解析し、地域住民のための健康対策提言をまとめた研究の成果を発表していただきました。

今年度の参加者は第1回22名(男性2名)、第2回29名(男性3名)でした。参加者は皆熱心で、シンポジウムや講義では活発な質問や提言が活発になされ、それぞれ有意義な公開講座となりました。

参加者は、第1回は助産師が多く、第2回は保健師が多い傾向でした。アンケート結果から、年代・職業は表

の通りでした。

年齢(人)	第1回	第2回
10歳代	0	0
20歳代	1	8
30歳代	4	5
40歳代	6	6
50歳代	5	7
60歳代	4	3
計	20	29

居住地は県北地域がほとんどであり、県中・県南地域が若干名でしたが、第1回はいわきからの参加者もいらっしゃいました。

職業(人)	第1回	第2回
公務員	2	0
保健医療福祉職	15	22
主婦	1	2
その他	2	5

公開講座の開催を何で知ったかについては、ポスター・ちらしからが多く、第1回は、友人・知人からもかなりありました。第1回については福島市の後援をいただき、市報にも掲載していただきましたが、母親などの住民の参加が少なかったのが残念でした。

公開講座に参加した理由は、第1回は「テーマに関心がある」が多く、第2回は「データの活用について関心がある」、「保健行政について関心がある」、「テーマについて関心がある」と参加理由を複数挙げる方が多いようでした。

感想としては、第1回は「産婦・助産師・医師と立場の違う意見が聞けてよかった」、「県の方が来てくださり、お産の実態や専門職の役割などを聞いていただけたのがよかった」、第2回は「今まで考えたことのない視点で今後の活動に役に立つ」、「データの分析や健康づくりのための施策に積極的に取り組んでいかなければならないと改めて学んだ」と、好評でした。